

# GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

## 1.早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	低炭素水素等
	対象	アンモニア
b.	分類	低炭素水素等
	対象	水素
c.	分類	産業競争力基盤強化商品
	対象	グリーンスチール

## 2.具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	アンモニア
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	GX推進のカギとなる燃料として低炭素アンモニアを調達し、火力発電所の発電用燃料として活用することで、GX 推進に貢献します。

b.	水素
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	GX推進のカギとなる燃料として低炭素水素を調達し、工業用の熱利用用途等として活用することで、GX 推進に貢献します。

c.	グリーンスチール
対象行動	宣言対象製品の製造

概要	グリーンスチールの製造・供給を行うことで、サプライチェーン全体でのGX 推進に貢献します。
----	---

### 3.サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

### 4.温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	アンモニア
削減対象	
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選択対象の位置づけ	

b.	水素
削減対象	Scope 1 + 2
目標年度	2030年度
基準年度	2013年度
目標削減率	30%
削減目標における選択対象の位置づけ	ボイラー等で使用している石炭や天然ガス等の燃料を水素に転換することによってCO2削減が可能であることから、水素の調達は削減目標達成に向けた手段の一つと認識しております。

c.	グリーンスチール
削減対象	
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選 択対象の位置づけ	

#### 5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

a.	アンモニア
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定 量的目標の概要	

b.	水素
目標年度	2030年度
定量的目標	1,000t/年の水素利用
選択対象に関する定 量的目標の概要	熱利用用途の燃料を段階的に水素に転換することを検討しており、2030年時点で1,000t/年の低炭素水素を調達します。ただし、本目標については当社が水素社会推進法に基づく低炭素水素を利用し、経済合理性が確保できることを条件としています。

c.	グリーンスチール
目標年度	
定量的目標	

選択対象に関する定量的目標の概要	
------------------	--

#### 6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	子会社
------	-----

※ただし、国内の子会社に限る

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

2025年3月31日

株式会社神戸製鋼所  
執行役員 岡野 康司